

## 1 環境

## 論点1 市街地へのマイカー乗入規制と市街地への駐車場の整備とはどちらを優先させるべきか。

## 市街地へのマイカー乗入規制を優先（4人）

- A マイカー通勤を対象とした乗入規制を行うことにより「通勤に公共交通機関利用促進 電車・バスの本数増える 便利になれば利用者数も増える」という流れを作りたい。ただ、道路が整備され過ぎてしまっている。湾岸道路にしてもそう。なぜこうなってしまったのか。道路を便利にしてしまった以上、車で動く生活スタイルを変えるのは難しいかもしれない。
- B 公共交通の利便性（増便など）がもっと改善されれば、乗入規制ができると思う。マイカーの利用を減らすことも環境の取組になり、CO<sub>2</sub>の削減につながる。
- C 環境面からは当然、乗り入れ規制優先が筋。ただし、市街地では小規模駐車場の供給過剰がかえって市街地利用を不便（場所の分かりにくさ等）なものにしており、それにより既に実質的な乗入規制は行われているものとも考えることもできる。改めて実施する場合は、分散している駐車場を集約化し、パーキング環境をより使いやすいものへと整備した上で駐車料金の高額化による規制を考えたい。
- D 市街地駐車場は現状で充分であると思う。

## 市街地への駐車場の整備を優先（9人）

- E 車社会の継続が見込まれる状況においては、中心市街地への利便性の確保や活性化を図るため、駐車場の整備を優先すべき。
- F 市街地駐車場の整備を優先すべきである。  
郊外の大型店が維持・拡大している要因の一つには無料大型駐車場が完備されていること。  
市街地へのマイカー規制は購買力が中心市街地及び市内から郊外又は市外に一層流失するおそれがあること。  
マイカー規制による公共交通の更なる充実は財政的に難しいと考えること。
- G 乗入規制をすると、ますます市街地へ出向かなくなり、市街地が衰退する。
- H 宇部くらいの都市では渋滞程度からみて、経済活動に支障が出るため困難と思われる。
- I 環境を守る観点からどちらも検討課題と思うが、ノーマイカーデーも定期的には実施されているものの、規制による市民全員の取組は公共交通機関等の支援等がないと困難と考える。優先的には、駐車場の整備と思うが、大規模で拠点的な駐車場で料金も低料金でないと理解と利用が得られないと考える。
- J 乗入規制のみが先行すれば、中心地からますます人は離れると思うので、市街地の駐車場整備はある程度必要と思う。
- K 人が集まり流れる街とするには、市街地の駐車場がぜひ必要と当団体の話題になった。
- L 環境を軽視するのではないことを大前提として、まず駐車場の整備 街の活性化 それを活かした環境対策とすべき
- M 駐車場整備をまず優先。

## その他（1人）

- N 環境のキーワードで考える場合、駐車場の整備は論点外と思われる。ただ、付け加えるならば、中心街の活性化は無用と考えているので、現状で十分と考える。乗入規制であるが、CO<sub>2</sub>削減及び資源の節約の観点からは効果があると思われるが、公共交通の実情から困難がある。これを可能にするには、多大なコストと意識変革が必要となり、実現はかなり困難と思う。また、ハイブリッドや電気自動車等の急速な進展も期待されている現状では、可能な範囲で行う程度でよいと考える。

## 論点2 自治体が環境産業の発展にどのような関与ができるか。

### 経済的支援、ネットワーク化、情報発信

- E 地元企業の環境商品購入に対する助成
- F 例として以下のようなもの  
地元中小企業の省エネ対策に対して自主行動計画の策定を支援し、その実績（効果）を公表しモデル事業所として表彰する。  
宇部地域の企業等が一堂に会して、また国内先進企業（市内企業と取引のある）も含めた環境産業展（仮称）を定期的に俵田体育館で開催（3年に1回程度）する。  
厚東川の水を利用する小型発電所の建設を行なう。
- H 環境都市で売り出す以上、ハイブリッドカー、太陽光発電、地熱利用施設などの設置推進を進め、行政の支援（助成）を行うべき。
- J 環境への取組事業の成果を検証・公表してフィードバックすることが発展につながるのではないか。
- N 宇部ブランドの一つである環境都市を前面に出し、産官学連携の継続の中で自治体が担うべき役割を果たしていくべき。外部への積極的PR（ブランド強化）はまさに自治体の役割と考える。
- C 産官学連携や業界への助成育成とネットワーク化
- M 環境産業が身近なところでどんなものがあるのかよく知らないので、まず自治体からそれを知らせてほしい。

## 論点3 市民レベルでの環境への取組としては、どのようなものが有効か。

### 省エネ、省資源、ノーマイカー、太陽光発電、地産地消、エコ教育などの身近な実践

- E ごみの減量化、リサイクルの促進、太陽光発電の設置等身近な取組の実施
- F 例として以下のようなもの  
家庭用省エネマニュアルを作成（チェックリスト、毎月の省エネ効果が金額での見える化を含む）しその普及と市条例で普及促進を行う。  
近い将来「ゴミゼロ宣言都市」を目指すこととして、自治会の最小単位（ごみ収集個所単位）でゴミゼロ宣言を実施しようとするモデル町内を公募し、ゴミゼロに関わる共通費用を支援する。
- I 燃えるゴミ・プラスチックゴミの出し方のルールは、他市より優良だが、各校区や自治会間では温度差があるようなので、なお一層の宇部市一体の取組強化運動の実施と野焼きや家庭ゴミの焼却防止運動の実施も緊急課題と思う。
- K 市民に環境問題等への関心が低い。リサイクルプラザほか、地域でのPR、体験もひとつの方法では。（見学に行った岩国のリサイクルプラザはとても元気だった。）
- O 樹や花を植えて、昔のように緑の多い街にできないか。個人の意識の向上が大切
- A 給食で地産地消に取り組み、それにより増加した費用は県などが負担するといった試みや、市のゴミの分別にしてもそうだが、最初はお金がかかるかもしれないが、産学官が民を動かしてできることも多くあると思う。宇部市ではそういった取組をしていけたら良い。
- B 現在、マイバッグ、マイはし・カップ等、むだを省こうとする市民意識は高まっている。小学校などでエコ教育も盛んで、子供たちも意欲的である。これを継続し、校区単位で美化についてどんどん取り組んでいけたらと良いと考える。
- D ノーマイカー通勤に積極的に取り組む。そのためには、公共交通の充実や自転車道の整備が不可欠だと思う。また、駅前や主要バス停に駐輪場（自転車置場）を整備できればよい。

## 2 コンパクトシティ

論点1 本市は「コンパクトシティ」を目指すべきか。目指す場合において、どのような規制を実施すべきか。また、中山間地域の小規模で高齢化が顕著な集落（小規模高齢化集落）へは、どのように対応すべきか。

### コンパクトシティを目指すべき（7人）

H 都市基盤整備費の拡大を防ぐためにも、当然に目指すべきだ。高齢化が進む農地については、農業生産法人等へ生産委託されてはいいが。

J 理想は「コンパクトシティ」だと思うが、宇部の現状では難しいと考える。ただし、これ以上、郊外の大型店は作るべきではないであろう。

A ワークショップでも意見があったが、高齢者が車に乗らなくても生活できるまちづくり。やはりコンパクトシティ化する必要があると思う。できる限り高齢者には、市中心地域に集中してもらえると良いし、高齢者施設などを中心部に増やすようにしてはどうか。

だが、実際問題として、山間部に古くから住んでおられる高齢者など、そう簡単に移住できるわけもなく、やはり公共交通機関（ふれあいバス、タクシーなど）が必要と思われる。山間部と中心部を結ぶネットワークを強化する。

B コンパクトシティを目指すことは良いと思うが、大規模な改革をするよりも、中心街の空き店舗の活用法を考え、市民がもっと中心街の必要性を感じる事が大事。中山間地域にはバスでなく、乗り合いタクシーでコスト削減する。

L ゆるやかなタイムスケジュールを作成して、コンパクトシティ化を目指さないと実現不可能と考える。法規制としては具体的に挙げられないが、自由・共産主義ともいべき規制が必要。

C コンパクトシティを目指すべき。コアとなる中心部のコンパクトシティと、周辺部の東岐波、厚南などをサブコンパクトシティとして整備したい。コア・シティには行政、金融、医療、教育、ショッピング、集会所などの多様な機能を誘導、対象業種等を定め、新たな市街地立地に対して税金面で優遇する。またユニバーサルデザインで統一するよう規制する。地盤沈下が進む商業施設については、中・小規模店舗も含めた郊外立地型のチェーン店の出店を規制、市街地では集積のための誘導策の展開。例えば、商店街内の空き店舗の土地所有者への納税強化と手放す場合は優遇措置を徹底するなどのアメとムチを駆使。

中山間地域の足（乗り合いタクシーやコミュニティバスの運行等）の確保。中山間地域内での生活面での互助機能の充実と、それに対する公的助成の拡充。また水保全など環境の観点から河川の上流住民を下流住民がボランティアとしてさまざまな生活支援を行うNPOなどの設立なども考えたい。

D コンパクトシティ化を目指すべきだと思うが、現状を考えると広がってしまったものを元に戻すのは難しい。これ以上、郊外に拡散しないように規制するのがよいのでは。

## コンパクトシティを目指すべきでない（４人）

- E** 人口減少社会に向けての行政サービスの効率化等から重要なテーマと考えるが、現在の市街地拡大にブレーキをかけることや公共施設・病院等設置の市街地への誘導が必要であること等、大きな課題を抱えていることから、現計画においては目指すべきでないと考えている。
- F** 以下のとおり。  
宇部市の現状を見ると「コンパクトシティ」を目指すのは相当困難と思われる。  
ア 既に人口が郊外に分散しすぎていること。中心市街地の新川・神原校区の人口が約13,700人、東岐波・西岐波校区が約28,500人、厚南・西宇部・黒石・原校区が約34,000人と東西の端に多くの人口を抱えていること。  
イ 道路網など社会資本は既に中山間地域でも整備され、雇用の場や医療施設も分散しており、なおかつコンパクトシティづくりへの市民のコンセンサスは得にくいと思うこと。  
コンパクトシティのコンセプトが「安全・安心・快適をキーワードとした美しいまちづくり」とすると、本市北部（厚東、二俣瀬、小野、旧船木・万倉・吉部）については、少子高齢化が加速しており安全・安心面での課題が残る。  
北部の何れか2ヶ所（1ヶ所は万倉）に農林業の振興と地域資源を活用した新事業の展開や起業しやすい環境の整備、魅力ある雇用や就業の場づくりに取り組み「生涯現役コンパクトシティ」づくりを行う。  
ヤル気のある青年が中山間地域で働ける仕組みを作る。
- G** コンパクトシティを目指すのであれば、現状の街を壊すくらいのもりで取り組むべきと考えられるので、実現不可能。小規模集落には、できるだけ手厚いサービスを。
- N** 今般の世界同時不況で歪な社会構造が浮き彫りになってきている。専門家ではないので明確な提言はできないが、コンパクトシティを目指すよりはユビキタス社会（ITネットワークにより、いつでもどこでも誰でもさまざまなサービスが受けられる社会）への変遷を進めて行くべきではないだろうか。中山間地域問題についても、若者の集団定着を促すような施策を講じれば（高齢者の知識・経験と若者の活力のコラボ）問題の解決の糸口が見つかるのではないだろうか。

## その他（４人）

- I** 各校区・各自治会等にコンパクトシティについて十分な説明や情報提供することなしに、コンパクトシティ化を進めるべきではない。
- K** 中山間地域の高齢化には、福祉面と交通の便利さが必要。コミュニティバスを運行する。いきいきサロン活動ができる環境や指導があると、生活が楽しくなるのではないか。人々の集まりで、ひきこもりをなくし、元気で過ごせるようにする。（世代間交流）
- P** 銀天街のシャッター街を地主との協力で更地化し、活用方法を検討する。見栄えがよくなれば、町全体が明るくなる。  
井筒屋を中心に商店を集約できれば、幅広い年代が行きやすくなる。高齢者が買い物などで移動範囲が限定できる。  
これ以上住宅の集約はいらない。
- M** アクトビレッジ小野は遠距離すぎて、とても利用する気になれない。コンパクトシティの理論に逆行していると思う。

**論点2 車社会である現状で、公共交通による移動サービスは、どの程度提供することが必要か。**

**中山間部と主要公共・商業施設へのアクセス確保の視点での交通網の再構築、公共・商業施設との連携、歩道、自転車道、バス停等の交通インフラの整備**

- F** 以下のとおり。  
基本的には、巡回バスの増発  
長期的には、公共交通では採算性から限界があるので、自治会等とタクシー会社によるワゴン型バスの運営、民間企業等の送迎バスの有効活用などを検討し、公共交通との乗り継ぎの利便性の強化、公的交通空白地帯を解消する。(運営費用は受益者=乗客やタクシー会社。更に企業に協賛を求め車体・車内等に広告を掲載する。乗客が利用する大型店や医療施設からの支援を受ける等が考えられる。)
- G** 公共交通は必要最低限で良い。
- H** 学校・医療施設、大規模店舗等へバス路線を集中させること。
- I** 環境キーワードに挙げられている「市街地へのマイカー乗入規制」を定期的実施する場合、公共交通の費用軽減の措置を講じないと理解と賛同が得られないと考える。
- J** 高齢者が増えていくことを考えると、公共交通の提供は、より必要になってくるであろう。(運転免許返納の際に、公共交通の優待の特典を付けるなど。)
- N** 公共交通の「提供」という視点では解決は困難と思う。Win-Winの視点で考えてみると、例えば大型ショッピングセンターは集客を目指しており、ここに少しのインセンティブを与えることで、移動サービス網の展開が可能ではないだろうか。商店街や医療機関、その他のサービス関連についても同様の方策はあり得ると思う。
- K** まず、宇部新川駅を宇部市の玄関にふさわしいものにする必要があるのでは。
- O** バス代等を安くし気軽に街中へ出て行けるように。宇部新川から原方面に行くバスを通す。
- A** 実際問題として、山間部に古くから住んでおられる高齢者など、そう簡単に移住できるわけもなく、やはり公共交通機関(ふれあいバス、タクシーなど)が必要と思われる。山間部と中心部を結ぶネットワークの強化。
- C** 車離れ社会の傾向(高齢化と若者の車離れ等)が強まることを前提に、公共交通の再構築は重要な課題。そのためにも新川駅前のバスターミナルの整備の徹底(玄関口にふさわしく)や分かりやすい路線への再編等を考えたい。JR宇部線は赤字化による廃線を食い止めるべく市民の理解と協力が不可欠。宇部線をコア・コンパクトシティと周辺のサブコンパクトシティを結ぶ足とし、利用促進を。
- M** 公共交通の不便は仕方ないと思う(市営バスは今でも赤字)。
- D** 現状は車社会であるが、車がなくても生活できる街を目指すべきだと思う。高齢化社会が進む中で、高齢ドライバーによる交通事故も増加している。高齢者が車を運転しなくても移動できるよう、また免許を持たない生徒や学生が徒歩や自転車でも安全に自由に移動ができるよう、公共交通をもっと充実させるべきであるし、歩道や自転車道の整備を進めるべき。フジグランにあるような建物に隣接する安全かつ便利なバス停が図書館や市民プール、保健センター、男女共同参画センターなど公共の施設にもあるべきだと思う。

### 3 地域ブランド

**論点** 本市の地域資源のうち、何が本市のブランドにふさわしいか。

彫刻（6人） 産業観光・産業遺産（3人） 常盤公園（3人） 空港（3人）  
お茶などの農産物（3人） かまぼこ（2人） 健康福祉・環境への取組（2人）

F 以下のとおり。

全国各市町村との競争の中で、強い個性や比較優位を有している宇部のブランドは現状では見当たらない。ブランドは探すものでなく作るもので、全国を相手にして、新たなビジネスを展開し宇部のイメージアップや評判が得られるものを造りあげることで、宇部市にとっては喫緊の課題と思われる。宇部ブランドの一翼を担う可能性のあるものとしては、お茶及びその関連商品、万倉なす、ごぼう、ハナッコリー、わさび漬、輿割漬、床波寒漬、アナゴ、カザミ、車海老・干海老、タコ、海苔、その他海産物、蒲鉾、日本酒、焼酎、薬草（ハーブを含む）薬木、竹製品、窯元製品、利休饅頭など和洋菓子、赤間硯、琴など。

上記地域資源の中では、歴史（約50年）、生産規模、市場での高齢化・健康志向等を考慮するとお茶をテーマに関連商品（食品・化粧品・医薬品等）の開発や茶畑のオーナー制度で全国ブランド化出来る可能性がある。しかし、課題も多く、商標の整理・統合が必要なこと、生産流通での同業者（競争者）が少なく、地元での消費が少ないこと、茶畑が観光地化していないことなど。ハード面での地域資源は山口宇部空港、常盤公園（野外彫刻・熱帯植物館、遊園地、動物園、四季の花等）、小野湖、宗隣寺・北向地藏などの神社仏閣、温泉、臨海部の工業地帯、産業遺産としての各種施設（石炭記念館、渡辺翁記念館等）、荒滝山、医学・工学関係の大学や公的研究施設など。

G 彫刻

H 彫刻、渡辺翁記念会館、産業観光

I アクトビレッジ小野及びこもれびの郷に多数の人が集結し、利用拡大が図れるアピール・企画等の検討が必要と考える。県・市の特産と県内外で位置付けられる小野のお茶を原料として、農商工連携の下、市をアピールできるブランド商品化を検討する。（うべかま、市の特産、野菜も考慮）常盤公園の整備により宇部市の活性化も手段と考える。

J 宇部空港に関連したもの。産官学が共同開発したもの。

宇部市の特徴や守っていききたいものなどを「いろはカルタ」にして、小学校などで覚えてもらい、小さい頃から街を愛することを教えていく。福祉・環境・医療制度なども同様に「カルタ」にして、子供の頃からシステムを教えていくなどの取組はどうであろうか。

N 健康福祉に関する資源や仕組み、特に障害に関するものは山口県ではトップであり、全国的にも高いレベルにある。従って、『障害者が当たり前で暮らせる町、個性を活かせる町』というブランド化の方向性も欲しいと思う。

K 地産地消を考えて、農産物の活用（茶、大根、みかん他）。「万倉なす」も、萩（長門）の「たまげなす」よりもいいのでは。カニは取れなくなったら困るか。

O 彫刻と緑の街

L うべかまぼこ（仙台・小田原を制するような戦略）

C 半世紀続く現代彫刻。「日本初」「世界3大ビエンナーレ」のキャッチコピーは粘り強く強調していけば、全国に通じるものになるはずだ。

M 空港、彫刻

D 常盤公園及び彫刻展、産業観光ツアー

## 4 常盤公園・彫刻

### 論点1 常盤公園は、観光資源と市民の都市公園とのどちらの方向で整備していくべきか。

#### 都市公園として整備すべき（7人）

- E 住みよいまちづくりを進めるため都市公園として整備すべき。
- H 市民の都市公園
- N 常盤公園は市民の公園の方向が良いと思う。現在、遊園地機能と公園機能の2つあるが、遊園地機能強化はコスト・敷地両面で困難と思う。公園機能としては一定規模の広さと魅力を備えており、市民の憩いの場としての活用が良いと思う。同園の環境整備については、知的障害者の就労の場となっており、他県へのアピールポイントでもある。（ただ、身分が訓練生のままというのが、ちょっとおかしいかな、と思うが）
- K 市民の都市公園として、彫刻をしっかりと常盤公園に集めてもらったら、宇部市自慢の公園になる。そこで、彫刻まつり、桜まつりも大々的にやれば、市民も楽しめるのではないかな。  
湖水ホールの活用と青年の家を自然の中で楽しみ体験できる「プレイパーク」にして、子供も大人も一緒に憩える場にならないか。（例：東京都世田谷区にある羽根木プレイパーク）  
ボランティアとして、山大工学部の学生に手伝ってもらったら、子供たちも遊べる、体験できる場づくりができる。
- O 市民の都市公園。スポーツジムのような設備を持った建物。景観のよいところに樹を植えて木陰を作る（サボテンの前あたり）。駐車場を無料にするか安くする。入園料を考える。
- A 常盤公園は、市民の公園でも良いと思う。観光資源とうたうには、正直なところ目玉に乏しい。例えば、動物園がもっと充実しているとか、遊園地としての機能が充実しているとか、年中花を楽しめるとか、そういった人を引きつけるものに力を入れなければ、観光としては難しい。市民に愛され、市民が楽しめる公園でも良い。
- C 戦前に常盤公園が誕生した経緯からも都市公園化が適当。野鳥＝環境、湖畔遊歩道＝健康をテーマにして。

#### 観光資源として整備すべき（2人）

- F 市外からの観光資源として整備していくべきである。外貨（入れ込み客）を稼がないと維持できなくなる。
- I 財政が許せるなら、過去、宇部市生まれの多数の市民や市民以外の方が訪れた常盤公園を、特に子供達の脳裏に故郷の観光地「常盤公園」の思い出として残り、将来にわたり誇りに思えるような観光資源として整備することが必要と考える。

#### 都市公園、観光資源の両面で整備すべき（5人）

- G 観光資源、都市公園の両方
- J 市民の都市公園であってほしいが、同時に観光資源にもなり得るのではないかな（白鳥や彫刻）
- B 観光資源と市民の都市公園との違いは何か。市民が喜んでいく公園なら観光地としても成り立つような気がするが。公園の周辺の宿泊場所や公共交通については、よく検討していけたらと思う。公園については、市民としても、遊具などについては、多少改善してほしい。
- M 観光か市民のためかを特別線を引かなくてもいい。赤字ならきちんと市民から入園料を取って整備を今までどおりする。  
遊園地がネックになっているので廃止する。公園は、日本一すばらしい公園と知人は言っている。市民が十分にウォーキング、ジョギング、バードウォッチング等堪能していれば、口コミで観光客も増える。
- D まずは市民にとっての都市公園として整備されるべきだと思うが、彫刻展開催時には観光資源となるよう工夫が必要。彫刻展は宣伝不足だと感じる。宇部空港、新山口駅、宇部駅など観光客や他市、他県に住む人々の目に付く所に「彫刻の街・宇部」をアピールできる物を設置する。

**論点2 既存彫刻の展示方法として、常盤公園を核とした一箇所集中型と現状の市街地各所への分散型とは、どちらの方が望ましいか。**

**常盤公園を核とした一箇所集中型（5人）**

- E 住民の作品鑑賞の利便性向上、また、観光資源としての活用の面から常盤公園を核とした一箇所集中型が望ましい。
- G 集中型プラス各小学校・中学校へ。各小中学校へ彫刻を。
- I 汗をかいてみんなの力で作成した彫刻の管理は、これまでどおり常盤公園の運営整備をして当園で一括管理する方が望ましいと思う。
- J 彫刻展示は、現在の分散型では鑑賞する機会が少ないから、一箇所集中型の方がアピール性があると思う。
- K 市民の都市公園として、彫刻をしっかりと常盤公園に集めてもらったら、宇部市自慢の公園になる。

**常盤公園やシンボルロード等への集中配置型（4人）**

- N 集中型が良いと考える。常盤公園での隔年の彫刻展は既に周知されているので、ここが拠点ではあるが、真締川沿いから宇部新川駅までを彫刻通りとして集中配置すれば、市民のみならず観光客の期待もできるのではないだろうか。（水木しげるロードのように）
- A 彫刻は集中させたほうが効果がある。車で通りがかりに見かける、という程度ではなく、歩いて見られる環境を作った方が良い。（ただし、常盤公園内という固定概念をいったん捨てるべき。）
- L 彫刻が、今宇部に伝承されている文化で最も客観的価値の高い存在と思われる。何箇所かの集中型でアピールすべきと考える。
- D 市街地にあるのもよいと思うが点在させるのではなく、歩いて彫刻を見て回れる範囲やルートを考えてどうか。「彫刻の道」として歩道の色を変えたり標識を設置し、それをたどっていくと彫刻を見ることができる。

**市街地各所への分散型（3人）**

- H 現状でよい。ただし常盤公園については、もっと一箇所に集中すべきだ。大型遊器具は設置費・維持費がかかり老朽化しており魅力がない。したがって、全て撤去しバッテリーカー30台くらいのみとし、その空地に集中させる。
- C 常盤公園だけでは広がりには足りない。市街地の設置は彫刻公害の批判もあるが、宇部に来れば彫刻がある。市民のすぐそこに芸術がある。そういった意味でのアートの町を目指したい。
- M 彫刻の配置は常盤公園と市内のあちらこちら主要なポイントに分散している現況を続行してほしい。  
彫刻は芸術なので、花壇づくりのように市民レベルの活動にはなりにくい。しかし、宇部の誇りとして市民の胸に焼き付けることはできる。他のどの観光地・都市に行っても、宇部ほど彫刻があふれている街はない。よその地で彫刻を見た時、「あっ宇部にも彫刻があったな。」とか、宇部に着いたら彫刻を見て、「宇部に帰ってきたなあ。」と。彫刻に特別に関心が無いようでも、自然にそんな心が市民の心に芽生えていると思う。山口宇部空港ビルにぜひ彫刻を設置してほしい。現在2階の搭乗口の正面には、自動車がドーンと置いてあって本当に悲しい限り。

**その他（2人）**

- F 宇部市の彫刻の役割が芸術文化の振興という事であればそれぞれメリット・デメリットがありどちらでも良い。何れにしても彫刻展の優秀作品を買って並べただけでは街の活性化や経済効果はほとんど期待できない。
- P 倉庫に眠っている彫刻もかなりあるように聞いている。これ以上の彫刻展が必要なのだろうか。経済的な面からも再検討してみてもどうだろうか。



**論点3 彫刻事業を市民レベル(学校教育を含む。)のものとして取り組むには、どのような方法が有効か。**

**市民が彫刻に直接触れる機会や創作の現場に関わるような機会の創出**

**F** 以下のとおり。

彫刻展出品の中で誰でもが分かる作品を街なか(人通りの多い場所)で制作してもらい、その制作過程を日々通行者に見せ作家のすばらしさを伝える。制作現場には完成図のチラシと募金箱を置く。

賃貸料の少ない公営の工房(作業場)を設置し、彫刻製作工程を公開する。

芸術・文化に明るい市外の人達は、石炭と彫刻の街と思っているので、石炭のイメージを彫刻に加える。例えばロシア産の黒玉(石炭の硬化したもの)を彫刻材料とした作品など。

宇部市から著名な彫刻家が育つよう学校教育(幼稚園から一部の大学まで)のカリキュラムに組み込む。

**H** 彫刻に対する市民の愛着が不可欠であるので、彫刻清掃ボランティア活動等に参加するよう各種団体等に要請

**I** 私も小学校時代の夏休みに、友人と彫刻を作成して、常盤公園に展示され幾度も足を運んだ思い出がある。昨今の若者層は宇部市の彫刻の芸術文化を知らない者もたくさんいるようなので、この宇部市の文化を伝承していくため、小・中・高等学校を問わず大学や一般企業等にも、彫刻の募集案内を行い表彰制度も取り入れれば、市民の意識も高まると考える。

**J** 彫刻のスケッチ大会、新しい彫刻のアイデア大会(小中学生)など

**A** 最近、彫刻の掃除ボランティアの数も増え、とても良い方向に向かっていると感じる。子供達にもそういうことをさせたり、彫刻の歴史や、散策などを通して身近なものに感じさせる必要あり。

**C** 彫刻をテーマにした小中学生の絵画や粘土工作、市民対象の写真コンテスト等々、市民参加の行事の充実

**D** 子供達を対象とした彫刻教室の実施や彫刻展と同時に幼児・児童・生徒対象の作品展を湖水ホールや常盤公園内で開催する。

## 5 学生満足度

### 論点1 学生にとっての暮らしやすさも、まちづくりの方向性や視点として必要か。

#### 視点として必要(8人)

- F 重要な要素。学生の中には都市のイメージを含め受験するものがあり、また、現在市内に多くの学生があり、学生による経済効果は大きい。
- G ある程度必要。
- H 多くの大学・高専が集中する宇部では、消費による経済効果が見込めるため、まちづくりの方向性として必要である。
- J 多くの学生がいることを活かしたまちづくりは必要と考える。
- A 学生も歴とした市民であり(住民票を移していない人もいるが)、市民の住みやすさを考えるのは当然のこと。
- B 学生にとって暮らしやすさを考えるべきだが、無理して学生の希望をかなえるのではなく、常盤公園などの青年でもゆったりくつろげる場、ちょっとおしゃれな空間を作ったりしていったらどうか。
- C 教授陣等を含めると市の人口のおよそ5%を占め、卒業後も宇部のメッセンジャーとなりうることを思えば、学生たちが宇部に住んでよかったといえる環境作りは不可欠。高齢化が進むなかで若者の姿は、まちの活気を演出するうえでも必要。
- D 必要だと思う。本市の少子高齢化を少しでも防ぐためには、若者の定住こそ最も優先されるべき事。宇部市内の高専・短大・大学に通いながら、卒業後宇部に住みたいと思わないというのは、大変残念。学生にとって魅力あるまちづくりを進めるべき。

#### 視点として意識する必要はない(3人)

- E 住民が住みやすいまちづくりが、学生が住み続けたい町につながると考えているので、学生のみで特化したものは必要ないと考える。
- N ユビキタス社会になれば、学生にとっても暮らしやすい地域となるはず。
- M 「工学部」「医学部」は一般市民にはなじみが薄く、私自身、交流も接点もない。若者はこちらが準備したものを享受するよりも自分から求めて行動するので、海・山など自然と遊ぶところは宇部にはたくさんある。娯楽施設の不足を言わないで、もっと自然を満喫してほしい。

### 論点2 学生に視点を当てたときに、どういうまちづくりを進めるべきか。

#### まちづくりの中での学生の役割づくり、集えるまちの核づくり、経済的メリットのある支援策、就職支援

- F 以下のとおり。  
学生を参画させたまちづくりを行う。例えば、まちづくりのヒントを得たり、学生が街に関心を寄せるようにするため、毎年まちづくりのための研究費の補助を大学や高専に行い、まちづくりに関する実態調査の上で、学生によるまちづくりのプレゼンテーションを行わせる。  
学生が主に利用する安価な専門店、古本屋、飲食店、映画館、不動産情報の提供を行うシステムを構築する。
- G 商店等の一極集中
- H 学生のまちづくりの感覚としては、「楽しいまち」すなわち「遊べる、遊ぶところがあるまち」づくりを期待していると思われる。

**I** 暮らしと生活、医療機関等の環境や利便性は、宇部市で生活する学生にとって環境は良好ではないかと思うが、若者が集う観光地等の整備が成されれば、もっと宇部市のイメージも向上し活性化につながるのではないだろうか。

また、若者層の流出に歯止めをかけ人口の拡大に向けて、地元出身の大卒・高卒者の地元への就職率（雇用率）を向上させる必要があるが、行政機関をはじめ各企業等団体の共通理解ができるかが難題である。

**J** 図書館・映画館・美術館（は無理としてもギャラリーなど）などが比較的大学に近いエリアにあり、学生間の交流や地域の人との触れ合いが持てる区域があるとよい。学生の利用しやすい飲食店ももっとあるとよい。

**N** 若者は基本的に変革と刺激を求めるであろう。宇部市がこれに答えられるだけの大都市機能を創造するのは困難。従って、別の切り口が必要。マスローの欲求階層構造で示される「生理 安全 連帯 自尊、そして最終目標である自己実現」が達成できると感じさせることができれば、彼らが住み続けたいと思える宇部市になるのではないだろうか。

**K** 集会、マーケットと気安く楽しめるつどいの場所が一緒に街にあると、学生の魅力となって街はにぎやかさが増すと思える。宇部の宿泊ホテルには売店もなく、近くの街には、暗くて遊びにも出られないというようでは、スポーツ大会で宇部に来て、泊まれない現状である。

**O** 若者が集まりやすいためのジムの設備等をつくって、いろいろなイベントをしたらどうか。

**A** 最近の学生の車保有率がどの程度か分からないが、交通手段が、歩き・自転車という人は多いはず。私も大学で県外に出ていたが、自転車かバスで動いていた。都会ではなかったが、幸いバスの本数は大学周辺と市街地の間で多く、便利だった。宇部市では、現状、市郊外のあちこちでコンパクトシティが進み、中心部との交通連携が不十分である。これでは、学生にとって暮らしやすいはずがない。中心部に若者が好む店があり、そこに向かう手段もなければ、活気が出ないのも当然。ここに残って住もうという気になるような地でありたい。

まちづくりを考える際、世代別、立場別にそれぞれの観点から考慮し、トータル的にどういうまちづくりの方向性にしていくべきかを議論する必要があるのではないか。

**P** 学生がアルバイトを見つけやすい情報の提示（アルバイト先の情報、企業・商店にバイトを斡旋、学生向けの情報誌など）、若者・学生が参加できるサークルの紹介など。

**L** 大学（工学部・医学部）及び高専の教授陣の視線を街に向ける必要がある。（単に就職担当の先生方だけでなく）

**C** 学生（特に大学生）と共生するまちづくりを。

ボランティア活動等、学生が地域に入り込める仕組づくりの促進を。現状は地域に関心のある教授や学生がいても市外からの者が多く、宇部のまちに入り込むとっかかりを見出せないでいるケースも見られる。とっかかりはボランティアを始めNPO活動、コミュニティビジネス、あるいは市街地における介護や看護などの医療学生の実践的な研修機会の提供、さらには都市デザインや建築など市街地を学習の場として活用できる仕組みを構築する。

さらに学生であることのメリットを経済的に享受できる仕組づくりを。市内全ての小売店で学生証で割引優遇、といった市全体が「学生の街宇部」の雰囲気醸し出す環境の整備を。また近年の経済状況にかつての「苦学生」が死語から復活しつつある状況もあると聞く。東南アジアからの留学生は市民の受け入れ団体があるぐらいだから、日本人学生バージョンの受け皿組織、例えば「大学生里親（サポート）制度」といったものを市民の間に定着させることも考えてはどうか。

**M** 公共交通の不便は仕方ないと思う。（市営バスは今でも赤字）

**D** いわゆる「学生街」を創れると良いのでは。高専及び工学部前の道は車優先で学生がのんびり歩くこともできない。歩道を広げ、街路樹を植えたり、カフェなど、若者向けの店ができればと思う。（実現は難しいかもしれないが。）

## 6 協働

論点1 「協働によるまちづくり」を進めていくためには、どのような手法が有効で、何が障害(問題)となるのか。

### 積極的な情報提供・情報共有、問題意識・危機意識の共有、市民の参画意欲を喚起する取組の提案

**E** 協働を進めるためには、住民、企業、NPO法人等と施策方向性の共通認識を幅広く得る必要がある。このためには施策内容について住民等に十分な情報提供を行い、理解を得る必要がある。情報提供の範囲、方法等が課題。

**F** 以下のとおり。

市民(関係団体含む)と行政が主体となって防災組織・まちづくり条例・格差医療の防止など市域の課題に取り組む。

障害となるは、本来行政がすべきと市民が思うように市民に押し付けてきたと思われるやり方。

**G** 市民の「協働」への意識のレベルアップ

**H** 市民公募債が即時完売になったのは、金利がよいという利点があったとはいえ、やはり、市民に行政への参画意思があったものと理解したい。したがって、事業計画や行事(イベントを含む。)に何らかの参画機会を設けることが「協働によるまちづくり」を進める原点と思われる。

**J** 市民が何を求めているかを知ることが大切だと思うが、「こんなことをやりたい」という意欲をどうやって持ってもらうか、又は持っている意欲をどうやって引き出すかが大切だと思う。

**K** 行政と住民との豊かな関係を築く。机上だけでなく動くこと。「学び、体験、知る」リーダー育成 暮らしを拓く力(出会いと学びあいの文化) 自立に向けて地域をつくる力へ。

**A** 大きな都市では、こういった協働の必要性が低いかもしれないし、難しいことだろう。しかし、宇部市の規模なら可能だし、逆にそれを売りにできるのではないか。

極端な例えでいうと、総理大臣が子供に向けてテレビという広報手段で「ポイ捨てはやめよう。」と語りかけても、きっと何も変わらない。ところが、各家庭で親が子供に直接「ポイ捨てはいけない。」と指導したなら、ポイ捨ては減る。「協働」の手法も基本的にはこれと同じではないだろうか。校区ではなく、自治会単位で、という案も同様である。そのための取組としては、それを司る機関には苦勞が伴うが、それを嫌っては改革は不可能。宇部市が大都市を目標に同じことをしようとしてもムダなわけで、宇部市の規模だからできる「人の力」をまちづくりに取り入れるのは良いことだと考える。

**B** 進めるためには、情報の共有が必要。実際、宇部市の財政は大変であると初めて気付いた。現状を知らない市民が多いだろう。現実を伝え、今後市民で何ができるか考えていく事が必要だと思う。財政の面だけでなく、市民の中にはよりよいまちづくりをしたいと考える人も少なくないはずである。ワークショップ、インターネット等でもっと市民の意見を聞いてみたらいかかが。

協働に強制はない。やる気のある人の輪を広げ、活動をPRしながら、より多くの市民に意識してもらいたい。NPO、ボランティア、地域活動のさまざまな団体がある。もっと団体が歩み寄り、協力していけば、大きな力になると思う。

現在のまちづくりの目標に「市民と行政のパートナーシップ」とあり、内容も明確に記載されています。立派な目標を立ててあるので、それを実行し定着化してもらえばよいと思います。

**L** NPOの(更なる)創出と評価。市民の意識の変革(まず市役所から)

**C** 行政サイドからの情報が不足。住民がパートナーとなりうる分野や仕事に何があるのか。行政の発掘努力と提案の工夫が不可欠。行政の仕事内容等の詳細を市民は知らない。協働は「行政マンのギロチン」との揶揄もある。そこをどうクリアできるか。

**M** 市民一人一人に危機管理意識を植え付けることが有効。先日のプラスチックゴミの選別も、短期間でうまく行った。この事のように広報や宇部日報等で市役所の生の声をもっと伝えてほしい。

**論点2 「協働」に対する市民の理解と動機付け・意識付けを得るためには、どのような取組が必要か。**

**小さいことから取組、子供の頃からの取組、地域からの取組、政策の企画・立案への参画**

- F 小さな課題（目標）から取り組む。
- I 地産地消運動推進の主旨について、生産農家と消費者の共通意識を向上させる取組を強化する。農業体験学習や農業参画も充分検討・協議の上進められれば、地産地消にも拍車がかかり、第1次産業への意識拡大と協働の動機付け・意識付けの向上につながると思う。
- J 子供の頃から、そのような意識を持たせることが重要ではないか。（下関市や周南市で「子供の市議会」を行っている報道があったが、宇部市でも取り入れられないだろうか。）
- O 地域交流の場を持ってほしい。（旧山銀）
- C 住民サービスの企画立案段階で住民が主体となって参画できるようにすることが前提。ワークショップのようなご意見拝聴式的手法では不十分。
- D 新総合計画策定のためのワークショップを継続して実施する。

**論点3 基本構想案に「協働」の考え方を盛り込むか。盛り込むとしたら、どう盛り込むか。**

**盛り込むべきである（7人）**

- E 地方のことは地方の責任で、とする地方分権型社会の中におけるまちづくりにおいては、行政依存から脱却して、行政・住民等が協働し進めることが重要であるので、このことを「今後のまちづくりの進め方」等として項目立てし記載する。
- F 協働はまちづくりに欠かせないと思う。行政は情報公開を一層進めると共に、地方分権が加速し、地域力（団結力と知恵など）格差が高まっていることを強く訴える。
- G どのように盛り込むか現時点では具体的にはいえないが、基本構想案にはぜひ「協働」の考え方を盛り込むべきと考える。
- P 地域によっては市民による市民のための条例づくりを行っている市町村もある。これからは、市民が中心のまちづくりが必要である。しかし、宇部市は意識が低い。どのように取り組むかは、これからの検討ではあるが、考えを盛り込むことは必要ではないだろうか。
- C 少子高齢化、労働人口の減少、財政難等の状況下、協働、すなわち「市民が担うべき公共」の重要性を率直、かつ積極的に盛り込むべき。
- M 基本構想に協働を盛り込むべきである。今までに成功した例を挙げて、市民がやる気が出るように盛り込む。
- D 協働の考え方を盛り込んだ方がよい。

**盛り込む必要はない（1人）**

- N 宇部市には『共存同栄』というキーワードがある。協働も同じ意味合いであり、敢えて協働を唱える必要はないのではなかろうか。

## 7 市財政

### 論点1 提言にあるようなシステムを本市において導入すべきか。

#### 導入すべき(4人)

- G 財政リスクアセスメント条例を導入すべき。
- I 宇部市の活性化に向けたまちづくりの方向性について、緊急課題と重要な事項に優先順位をつけるため、導入すべきと考える。
- A 専門的に見てどうなのかはさておき、一般市民の立場からすると、当然導入すべきである。市議会とかお偉い方々というのは、色々なしがらみや圧力の中で活動されており、結局市民のための財政を考え、市民のための事業を行ってきたかという必ずしもそうとは言い難いだろう。特定の人たちの利益のため、意見のために、将来を見据えられていないにも関わらず、市の財政をつぎ込むのは良くない。
- M 財政リスクアセスメント条例は導入すべき。

#### 慎重に検討(1人)

- C 要は自治体を「経営」できるかどうかの問題。大前提は為政者の力量にある。反面で、会社で言えば社外取締役のような外部の視点が入ることが必要だ。提言にある財政リスクアセスメント条例も、住民が自治体財源の健全性を監視、確保する手段として有効と考えられる。  
ただ、事前のアセスがどこまで監視機能を発揮できるかは疑問。リスク・アセスはもとより全てのリスクに関わる。何を持ってリスクと定義するのか。十二分な議論が不可欠だ。また事前評価によって、まちづくりをめぐる議論が財政リスクを回避せんがためのものに陥る可能性がある。その場合、社会情勢の変化に伴い必要とされる公共事業に関して、財政の観点が一歩歩きして、場合によっては本来必要とされる住民サービスが犠牲となる場面も出てくるだろう。と同時に政治家としての首長の裁量権を侵すものにもなりかねない。  
リスクと社会的ニーズとの相関関係やリスクの定義一つとっても条例化には市民のコンセンサスが前提となる。そのためには相当な時間と議論が必要になる。いまのところ、評価するならば事後評価徹底が現実的な対応だろう。

#### 導入すべきでない(2人)

- E 将来的なリスク要因(制度が変わる、政治が変わる、住民の価値観が変わる)を踏まえ、市財政に与える影響を評価することは困難であり、導入できないと考えている。
- H 民間感覚(スピード、効率)を取り入れた事業執行は重要であるが、市財政や行政の中身を熟知した方でない一般人で構成されたシステムを導入するのは不可である。議会や監査でチェックされており、職員自らがリスク管理を行えばよい。引き続き、たゆまない行財政改革を進められるよう要望する。

#### その他(2人)

- F 事業性を備えた事業を3~5つ程度立ち上げ、半分以上の事業を立上げ資金として拠出、5年程度は無利子、償還は事業が利潤を生み出すようになったときから。
- B 提言の内容も新市建設計画や総合計画と同じ内容に感じた。市が計画していることを、広く一般に通知することが必要と思う。リスクの評価は、市民の満足度ではないか。それと10年後の人口数にも表れると思う。

### 論点2 プロジェクトの実施に伴う財政的なリスクを評価する場として、どのようなものが適切かつ有効か。

- A プロジェクトを決める前の段階で、なぜ、市民がそれをもっと簡単に誰でも知ることができる現状になっていないのか。市民参加型で、市民が知り、市民が納得し、取り組むシステムを考える必要がある。自治会単位であるのが有効かは、単位が細かすぎて疑問だが、少なくともボトムアップで意見を集められる環境が良いのではないかと。
- C 議会との兼ね合いがあるが、税務の専門家や企業経営者など「経営」能力のある人材を集めた審議会的な組織を設置したい。
- M 評価する人は、学識経験者、中小企業の経営者、主婦、大学生

## まちづくりへ向けた合言葉

共存（2人） 共生（2人） 共有（1人）  
交流（1人） 循環（1人） 調和（1人） 多様性（1人）  
創造（1人） 活力（1人） 希望（1人） 魅力（1人） 輝く（1人）  
一丸（1人） 心（1人） 健康都市（1人）

A (市)一丸

B 調和

C 共存と活力

D 共存

E 共生

F 創造

F 創造

G -

I 共生

J 共有

K 魅力、輝く

L 心 市職員をはじめとする市民の心を豊かにする。努力する。励む。

M 循環

N 多様性 地域社会は、元々多様な人間の集合体であるが、「普通」とか「常識」とかいう言葉で異質な者を排除し、結果として住みづらい社会を創ってきている。原点に立ち返り、多様な個性を活かす地域創生を目指したい。

O 希望

P 健康都市